

県目標は今年度中の45時間以内100%!

「市教委も目標を」越教組が要望

越教組ニュース

越教組は、3月10日に「来年度の教育行政への要望書」に基づき市教委と話し合いをしました。これは二〇二四年度の市の教育行政について、組合として要望を出し、市教委のメンバーが代わっても、ここで確認した内容を引き継いでもらうという重要な位置づけがあります。(※は話し合いとは直接関係ありません。)

働き方改革

市教委の本気度を

【組合】県は「働き方改革基本方針」で、時間外在校等時間を月45時間以内、年360時間以内の教員数の割合を令和6年度末までに100%にする目標を立てているが越谷市には、いつまでもどこまで達成させるのかという目標がない。越谷市は県の目標無視か。

【市教委】時間外勤務を削減したいという気持ちと同じである。しかし、単に時間だけの追求に終わらせてはいけない。打刻時刻の恣意的な操作など、校長には口を酸っぱく何度も言っているが、何よりも先生方の健康のために取り組んでいることを念頭に置きたい。平均は減ってきているが、個々ではまだ長い方もいるので、そういう方にはすぐにでも対応していききたい。

SSSSは多忙時どう

【組合】SSS(スクールサポートスタッフ)配置は助かっているが、7月・8月・12月・1月は配置されない。秋の交渉でも、せめて配置月の改善を要請したが、来年度は改善されるのか。

【市教委】来年度も今年度と同じように、在校時間が長い月に配置することになっている。

※信じられない。いかに現場を見ていない行政なのかと唾然とする。

学力テスト

【組合】県学調のCBT化に向け、現場の混乱が予想される。十分な対策と拙速な導入に反対する。以前の練習時に、自分のクラスでは半数の子のタブレットでは数字入力ができない状態になってしまった。問題に答えるよりも操作の方に気を使ってしまうと、これ为本当に調査ができるのか疑問だ。

【市教委】県の方で進めている事業なので、だんだんと慣れていってもらいたい。今回の調査の結果もアンケートで回収しているの、そちらでも声を伝えてほしい。



越谷市教職員組合 ホームページ



「埼葛人権の集い」不明金問題

「埼葛人権の集い」が問題となっている。実行委員会を構成する12の市町が毎年総額二六〇万円を負担金として支出してきたが、二〇二二年度までの過去10年間で約一六〇〇万円の使途不明金があると報道されている。

負担金は、毎年行事に参加する民間団体関係者の男性に振り込んできたが、そのうち毎年約一六〇万円の領収書がなく、不明瞭だという。

「集い」の開催場所は久喜、幸手、越谷、三郷、春日部の持ち回りで、人権に関する展示や福祉施設の製品販売などを企画し、毎年一〇〇人以上が来場する。ここに各学

校で作った折り鶴などが飾られるわけだ。

この「集い」見直しの話が出てくるのは当然だろう。越谷市はどのような対応をするのか、注視したい。なお、この報道の後、民主市政の会が市教委指導課に話を聞きに行くと、「集いで現場が大変だということは分かっている。他の課とも今後検討していく」「(集いを廃止してほしいというのは)貴重な意見として伺います」という話が聞けた。

組合は毎年「集い」の見直し・廃止を要求してきたが、やっと動き出す気配が見られてきた。

再度「人権の集い」について

【組合】「埼葛人権の集い」の取り組みは学校には大きな負担であり、その廃止や改善を要請してきた。担当が市教委ではないといふので、担当課に声を届けてくれということを言ったが回答は、「【市教委】担当課でないのではっきりとは答えられないが、そのような声

は届けてくれているものと思う。もう一度、指導課にそのような声があったということを伝えていくようにする。

能楽教室の見直しを

【組合】能楽教室が復活された。現場では、あまり歓迎されていない。意義はわかるが、子どもの実態などから、希望する児童には家庭単位で引率してもらうようなやり方を検討してほしい。

